

Photo report

- フォトレポート -

虎山の千本桜

春さんぽをしている最中、桜の花びらが空高く舞っていました。舞う花びらの基を見ると、虎山の千本桜が――。

そこには、たくさんの人たちが美しい桜を一目見ようと集まっていました。

「村の春」といえば虎山の千本桜の名が出てくる人も多いのではないのでしょうか。そんな美しい桜を毎年楽しむことができるのは、地域の人たちが丹精込めて桜の世話をしてくれているから。「村の春」は地域の人たちの桜に対する愛情と深く繋がっていました。

二千もの桜を見事に咲かせているのだとお話を聞いて気づきました。

「とってもきれいな桜でした。」
「そうかい。また来てくんない。」

春さんぽをしていたら、美しい景観と人々の桜に対する想いを感じることができました。

虎山観桜会の市田栄^{さかえ}さんは、15年もの間、虎山の千本桜の管理に携わっています。虎山の千本桜はもとも採石場でしたが閉山する際、採石場の社長だった方が土地を整備し、桜の苗木を千本植えたことが始まりだそうです。

「植えた桜を後世にずっと残してほしい」という社長の願いを叶え、意志を引き継ぐため虎山観桜会は発足したとのこと。植えられた千本の桜に虎山観桜会が植えた千二百本を加え合計二千二百本の桜が今も咲き続けています。現在は、5種類の桜が植えられており、2月〜5

月までの長い期間で楽しむことができます。 (※4月で閉園) 虎山観桜会は、発足当時は120人が活動していましたが、現在は久保会長をはじめとする70人ほどで草刈りなどの桜の保護活動をしています。少ない人数ではあるものの、毎年桜を楽しむにしている人たちにこれから先も虎山の桜を見ていただきたいという想いで、手入れをしているそうです。

「心を込めて育てた分だけ、桜は立派に美しく咲く」そう市田さんは教えてくださいました。虎山の千本桜に訪れる多くの人たちの協力と虎山観桜会の桜に対する思いやりが約